中期計画に対する評価委員からの意見について

資料 1

項番	委員名	委員からの意見	回答・修正等対応																		
項番 1 指標①	岡田前委員	【第 67 回評価委員会】 指標において、高校生向けのニーズ調査を実施とあり、それも 1 つの手段としては重要かと思うが、それだけではなく、産業界を含めた形で幅広くニーズを探っていたのがよいのではないか。	ニーズ調査は、高校生を含め様々なステークホルダー等を対象として実施することとしており、事業実施にあたっては、経済団体や地元企業、近隣の自治体、教育委員会等を構成員に含む合同会議を設立し、幅広いニーズを取り入れていきたい。																		
項番 2 指標①、② 項番 23 指標②、③	岡田前委員	【第 67 回評価委員会】 項番 2（県立芸術大学との教育連携）と項番 23（県立大学との教育連携）の指標の書きぶりに、若干温度差があるように見受けられるので、ここは統一して整合性を持った形で記載するほうがよいのではないか。	両項番（2 大学の教育連携）における指標については、調整のうえ同内容に統一した。																		
項番 5	河辺委員	【第 67 回評価委員会】 コミュニティ通訳学コースは、豊田市など、在留外国人の多い地域が近くにあり、初等教育の語学教育への対応が課題となっている背景から設置されたと拝察している。多文化やグローバルに係る取り組みとして、地域連携の取り組みにおいても記載されてもよいのではないか。	医療、司法、教育、行政、福祉等などの分野で必要とされる専門知識を有するコミュニティ通訳者やコミュニティ通訳分野のコーディネーター・研究者の育成を目的にしたものであるため、教育の取組として整理したい。 これらの分野での学外機関との連携について、講義科目や実習科目の中での実践のほか、修士論文研究でのフィールドワークとして実施しており、こうした取組は、今後も継続して実施していく。																		
項番 15 指標①、②	松本委員	【第 68 回評価委員会】 外部資金の獲得について、研究のところに記載されているが、現状どのような水準であるか。	第三期中期計画期間中の外部資金の獲得状況は以下のとおり。 <table border="1"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>2019</th> <th>2020</th> <th>2021</th> <th>2022</th> <th>2023</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>採択件数（件）</td> <td>209</td> <td>190</td> <td>209</td> <td>216</td> <td>190</td> </tr> <tr> <td>金額（千円）</td> <td>168,466</td> <td>167,571</td> <td>198,525</td> <td>197,918</td> <td>194,430</td> </tr> </tbody> </table> <p>※【第 3 期中期計画項番 19 指標 研究に係る外部資金の採択・受入件数を第三期中期計画最終年度までに、第二期最終年度から 10%以上増加させる。（参考）目標 215 件 2018 年度 195 件】 ※【第 4 期中期計画項番 15 指標②研究に係る外部資金獲得件数を、第三期最終年度と比較して、第四期終了時点の 6 年間で、増加分合計を 60 件以上とする。</p>	年度	2019	2020	2021	2022	2023	採択件数（件）	209	190	209	216	190	金額（千円）	168,466	167,571	198,525	197,918	194,430
年度	2019	2020	2021	2022	2023																
採択件数（件）	209	190	209	216	190																
金額（千円）	168,466	167,571	198,525	197,918	194,430																

<p>項番 18</p>	<p>前田委員</p>	<p>【第 67 回評価委員会】 高大連携については、広報も含め大事なものだと思うが、具体的に踏み込んだ案を考えているのか。具体的な取り組みの想定があるのであれば、記載をしたほうがよいのではないか。</p>	<p>2025 年度から設立される併設型公立中高一貫校との連携については、学校から個別に相談を受けている。具体的な取組については、今後、県教育委員会と調整しながら決めていきたい。</p>
<p>項番 20</p>	<p>山本委員</p>	<p>【第 67 回評価委員会】 愛知県が設置した「ステーション A i」との連携について、どのような現状か。また学生を含め、積極的な活用等の想定はあるか。</p>	<p>2024 年 10 月から法人名義で会員登録を行い、コワーキングスペース等は活用できる。2024 年 11 月 4 日には、フランスの高等機関や県と連携して開催したスタートアップ国際シンポジウムの会場としても活用した。 今後も、学生の活動の場としての活用や、県立大学に 2027 年度に整備を予定しているインキュベーション施設との連携などについて検討していきたい。</p>
<p>項番 33 指標①</p>	<p>前田委員</p>	<p>【第 67 回評価委員会】 学長直下に広報組織を置くとあるが、高校生に来てもらうための踏み込んだ広報の案を考えているのか、具体的な取り組みの想定があるのであれば、記載をしたほうがよいのではないか</p>	<p>本項番は、芸術大学のブランドイメージを確立するための取組を行う項番として位置付けており、企業でブランドを専門としたデザイン科の教員の意見を取り入れながら、戦略的な広報を展開していきたいと考えている。 志願者増に直結する高校生、中学生などに向けた具体的な取組については、項番 29（芸術大学に相応しい多様で優秀な入学者の確保）に記載している。 ※項番 29 の取組：小中学生を含む生徒を対象とした公開レッスンの等実施</p>
<p>項番 39</p>	<p>石川委員</p>	<p>【第 68 回評価委員会】 DX の推進については、グリーントランスフォーメーション (GX)、つまり気候変動とどう両立させていくかというのが重要になっており、大学を含めて、全ての企業・組織に気候変動対策をとることへのプレッシャーが非常に高まってきている。DX の推進と、GX の両立に対応していく考えはあるか。</p>	<p>まずは業務改善を進め、業務フローの見直しをした上で、必要な部分についてはシステム化することとしている。</p>